

渋田川など水源地域探索ハイキングのご案内

日 時 平成 19 年 11 月 25 日 (日) 午前 10 時～午後 3 時
(雨天の場合は、12 月 2 日 (日) に順延)

集合場所 伊勢原駅改札前 (小田急小田原線)
午前 10 時集合 (時間厳守 10 時 15 分発日向薬師行きバス乗車予定)

主 催 者 金目川水系流域ネットワーク
神奈川県湘南地域県政総合センター

コ ー ス

○関東ふれあいの路
かながわ No.10 コース
「太田道灌・日向薬師のみち」に沿って金目川水系の内、伊勢原市内の水源地域などの探索
(主なルート)

伊勢原駅→洗水バス停→
渋田川源流域探索→太田道灌の墓など→鈴川中流域探索→三之宮比々多神社→栗原川上流域探索→
神戸バス停→伊勢原駅

(なお、健脚者向けに、さらに「関東ふれあいの路」を進んで「善波川上流域」の探索を行い、坪の内経由で鶴巻温泉駅までのコースを用意しています。)



連 絡 先 野間紀之 (E-mail アドレス n.noma@nifty.com、Fax 0463 (83) 1094)

流域フォーラム2008のお知らせ

次の日程で、標記フォーラムの開催を予定しています。

テーマは、「私たちにとって金目川とは？」と題して、いろいろな立場からご参加をいただき、金目川流域の現状や未来などについて語り、またこの地域の将来に期待した議論をいたしたいと考えております。

次号の「せせらぎ通信」(19 号)で詳細なご案内をいたしたいと思いますが、フォーラム当日の運営や、当日の議論のテーマなどにつきまして、多くの方々のご提案、ご意見などを歓迎いたします。

ご提案などがありましたら、この資料の 4 ページの最下欄に記載いたしました「当ネットワークの事務局」あてに、ファックスでご送付いただければ幸いです。

開 催 日 2008 (平成 20) 年 2 月 3 日 (日)
会 場 東海大学 (10 及び 13 号館) を予定
主 催 者 金目川水系流域ネットワーク
NPO 東海大学地域環境ネットワーク
東海大学大学院人間環境研究科
神奈川県湘南地域県政総合センター

○ 夏休み 金目川の生き物観察会のご報告

一杯と捕れたよ！

府川 清

川にはいると、子ども達は、むやみに網をザブッと水の中に差し込み、魚を掬おうとする。でも、だいたい捕れない。期待外れだ！

さーあ、おじさん達の出番がやってきた。金目川は、子どもの時に魚を捕って遊んだホームグラウンド。子ども達に魚の捕り方を教えてやりたい。中には名人クラスのおじさんが何人もいる。

魚や生き物は、東海大学の先生が言うように、大きめの石に下のすき間に隠れているんだよ。だから、魚を捕るには、めざす魚が居そうな大きめの石を先ず決めるんだ。次に、魚が逃げやすいように、その石の下流の小石をどかして、魚の逃げ道を作るんだ。

そうしたら、網を石の下流の逃げ道に置くんだ。今度はいよいよ大きめの石をどかす番だ。魚がビックリして逃げないように静かにどかすんだ。できるだけ早く、流れの上の方から川底を足か、手でザブザブと、魚を網の方に追い立てるんだ。魚は網の張った方の逃げ道を進んで、網の中へ入っていく。さーあ、魚が逃げないうちに網を手早く、引き上げるんだ。

小さい魚が網の中で動いている。捕れた！ 男の子も、女の子も目が輝いている。うれしい一瞬だ。さーあバケツに川の水を入れ、網の中のシマウキゴリ（ハゼの仲間）を移そう。この魚が一番たくさん捕れた。

おれ達が子どものころ、ダボと呼んだ大きなヌマチチブも捕れた。小さいウナギ、シマドジョウ、手長エビ、モズクガニ、トンボのヤゴ、ザリガニ、トビケラ、ヘビトンボ等が、子ども達のバケツの中へ収まった。一時間くらいの間に、午前中も、午後も、いろんな魚や生き物が十数匹捕れたバケツが幾つもあった。意外と川岸に近い浅瀬の方でいっぱい捕れた。

子ども達は、川の中の生き物に、じかに接した喜びを感じているようだ。魚の生態も少し分かってきたのか、魚の捕り方も段々うまくなり、楽しんでいる。おれ達年金生活者のおじさんも、子ども達と対話が弾み、頼りにされる先輩の役割を果たすことができ、本当に楽しかった。

東海大学の男女の学生達の協力、支えがうれしい。「子ども達からエネルギーをもらった」大人がオレたちと接した時、同じことを言われていたが、それが実感として分かった、という学生もいた。若いお母さん達も、子どものいきいきとした姿、成長ぶりに満足。

その笑顔がよかった。



(生き物を捕る子どもたちと、観察する知事たち)

金目川 豊かさ実感

平塚 児童ら生き物観察会

ナマズやアユ、シマドジョウも

子供たちに地域の自然に親しんでもらおうと、平塚市南金目の金目川で二日、地元の小中学生が生き物観察会を行った。午前と午後の二回行われた観察会には、市立金目小（南金目とみずほ小（北金目）の児童と保護者ら計百六十人と、地元住民による「金目川水系流域ネットワーク」の会員約二十人、東海大の学生ボランティア約三十人、市の職員が参加した。

(小林 一登)

子供たちは、ボランティアが付き添い川の中にひさまでつかり、網などを使って生物を捕まえ、ナマズやアユ、エビ、カニなど、中にはシマドジョウなど比較的珍しいとされる生物も、東海大教養学部講師の北野忠さんが、捕まえた生物について説明子供たちは、学校に持ち帰り水槽に放

松原知事（左から3人目）が訪れた生き物観察会
平塚市の金目川



れた松原知事と児童が河川に立ち寄り、メダカを

保存について北野さんから話を聞いた後、子供たちが声を掛けるとして

(平成 19 年 8 月 3 日付け神奈川新聞記事より抜粋)

○この報告は、平成 19 年 8 月 2 日（木）に、平塚市内の小中学生などを対象に、子どもたちに「身近な自然への関心を深め、環境保全の意識を高める」ことを目的に、下記の主体が開催した「金目川の生き物観察会」の実施報告です。（参加者 児童 92 名。そのほか、父兄など 80 名、東海大学学生 25 名）

実施主体 金目川水系流域ネットワーク、NPO 東海大学地域環境ネットワーク、平塚市
協力 東海大学教養学部人間環境学科、東海大学学生ボランティア、地域住民など

○ 金目川流域の夏期水温調査の結果報告

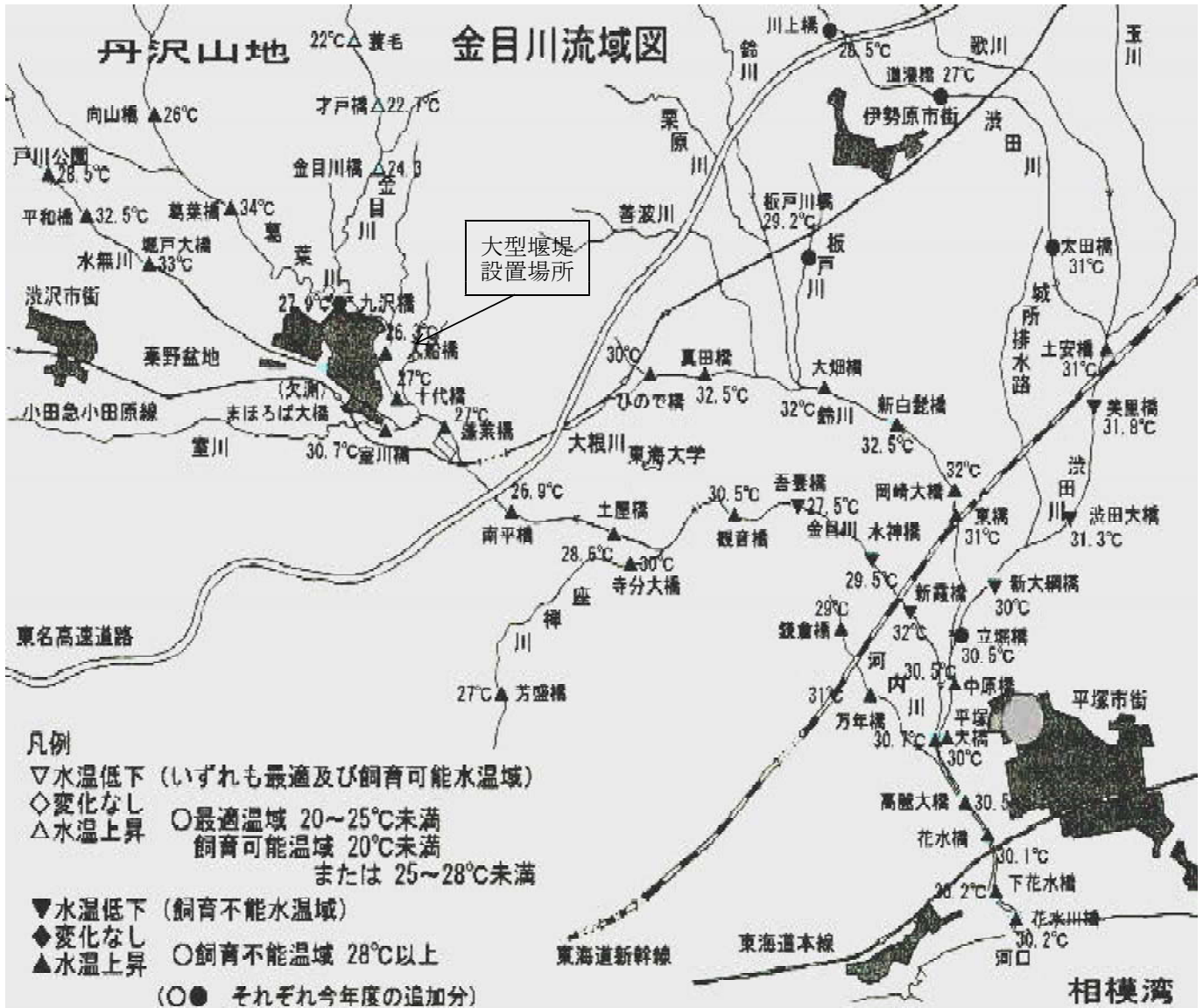
(文責 野間紀之)

これまで、金目川流域の河川の夏期水温の上昇傾向が続いており、「鮎の棲息可能性」(水温 25℃以下)の視点から、平成 17 年から毎年 8 月 16 日(原則 13～14 時の間)に会員による水系全域での水温調査を実施している。

本年の水温調査時の状況は、夏期の異常高温が続いた中での測定となり、それぞれの地点(53カ所)での気温は 29.8～40℃の範囲となり、人の体温を超える地点(37℃以上)が 18カ所にもなる異常な状況下での測定であったことから、下図にみるとおり、流域内の 3カ所を除き、ほとんどの地点で前年に比較して大幅な水温上昇がみられた。

また、夏期の水温が「鮎の棲息適温である 25℃以下」の地点は、全流域中 3 地点のみであり、そのいずれもが金目川本川の最上流域であったが、残念ながら当該地域は下図にみるとおり下流に高い堰堤があり、いずれも鮎の遡上不可能な地域となっている。

夏期の水温測定結果



今年の調査日以前、数日にわたって記録的な気温上昇が続いていたことから、前年度の測定と比較して水温上昇が著しく、前年度に測定した 44 地点で比較すると、平均で 2.7℃、最大で 9.5℃の水温上昇がみられていた。

なお、昨年度に比較して水温低下をみせた地点が 3 地点(渋田川中流域)あり、それぞれ 0.5～1℃の範囲内での低下がみられたが、当該地点の水温は 27.5～32℃の範囲にあり、鮎の棲息環境としては不適となっている。

水温の経年変化

測定年度	測定地点数	平均値(℃)	標準偏差
17	39	25.5	2.5
18	44	26.8	2.9
19	53	29.2	2.6

○ 秦野市弘法山公園のラン科植物たち

東海大学教養学部4年 門松 美幸

秦野市の東部に位置する弘法山公園は、四季折々の花が咲き誇る場所であるため、地域の人々や登山客の憩いの場所となっています。公園内のクヌギ・コナラの雑木林では、この環境を好むラン科植物が生育しています。春の初めにはシュンランが咲き、5月にはキンランやギンラン、ササバギンラン、エビネ、5月下旬になるとサイハイランの花が見られます。6月以降になるとオニノヤガラ、マヤラン、タシロランというちょっと変わったランが咲きだします。それらのラン科植物は、ほとんど光合成を行わず共生菌に頼って生活をする、腐生ランの仲間です。

しかし、現在多くのラン科植物は、日本全体で数を減らしています。近年、雑木林の管理が放棄され、ラン科植物たちの生育環境が悪化しているためです。雑木林に生育しているラン科植物として代表的なキンランは、神奈川県レッドデータブックに記載されているほど減少しています。また、生育環境の悪化に加えて、エビネなどのラン科植物は花が美しいことから愛好家による盗掘被害を受けています。

私たち人間は、社会が大きく変化した今日、自然との共存の仕方を真剣に考える時期ではないのでしょうか？ 過去から現在へと続いてきた豊かな自然を未来へと繋げることが、私たちの義務であると思います。



マヤラン



タシロラン



ササバギンラン



キンラン

○ご意見、ご感想、地域情報、入会希望などがございましたら下記までお寄せ下さい。

事務局 〒259-1292 平塚市北金目 1117

東海大学 教養学部 人間環境学科 自然環境課程

佐々木園子

事務局あてのご連絡は、Fax 0463 (50) 2208 (自然環境課程) をお願いします。

(毎月第2土曜日の午後1時30分より例会を開催しています。是非ご参加下さい。)